

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	平野区
学 校 名	大阪市立喜連小学校
学校長名	平田 武司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・喜連小学校では、第6学年 48名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語の平均正答率は、大阪市平均より3%、全国平均より1.3%上回っている。
- ・算数の平均正答率は、大阪市平均より3%、全国平均より1.6%上回っている。
- ・平均無解答率は、国語が大阪市平均より0.1%、全国平均より1%低かった。また、算数は大阪市平均より0.1%、全国平均より0.3%低かった。

平均正答率は、国語・算数の二教科とも大阪市・全国の平均を上回ることができた。また、平均無回答率についても本校児童の解答率が大阪市や全国平均より比較的高い結果であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

国語では、ほとんどの項目で、全国、大阪市を上回っている。特に「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる」「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる」という趣旨の正答率が高かった。また、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる」という趣旨についても正解率が高く、そのことは本校の研究教科として「叙述を基に読み取り、表現する力を育てる」ことを大切にした授業づくりを3年にわたり取り組んできた成果であると考ええる。

〔算数〕

算数では、「数と計算」「図形」の領域において全国、大阪市の平均を上回っている。特に「図形」では、全国と比べても6ポイントと大きく上回っている。また、「数と計算」領域についても全国より3.2ポイント上回っている。それ以外の領域については「変化と関係」「データの活用」領域がそれぞれ全国、大阪市の平均より僅かながら下回っている。この2つの領域については、正答率の結果から読み取りや記述に関して課題があると考ええる。

質問調査より

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「自分には、よいところがあると思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」については、肯定的な意見が高く、全国、大阪市を大きく上回る結果となった。

「英語の勉強は大切だと思いますか」「国語・算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についても、全国、大阪市の平均を上回る結果となった。

一方で、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」については全国、大阪市の平均を大きく下回った。

今後の取組(アクションプラン)

国語科の研究を継続し、子どもたちが主体的に学び、表現できる児童を育成していく。その際、継続して取り組んでいる「叙述を基に読み取り、表現する力を育てる」取り組みを進めていく。

算数科では、習熟度別少人数学習等、きめ細かな指導を行ってきているところである。

今後も基礎基本の定着を目指して学習を進め、短期学習や個別指導を充実させる等、理解度に応じた学習のあり方を模索していく。また、現在、「ブロック化による学校支援事業」を活用し、6年生ではリーディングスキルテストを導入している。一方で、体験活動への取り組みとして本年度もクラフトパーク（本格体験プログラム）を取り入れた。